

令和8年度 第1回
歩行空間の移動支援に係るデータのオープンデータ化・利活用促進ワーキンググループ
議事概要

1. 開催日時等

日 時：令和8年8月27日（木） 10：00～12：00

場 所：合同庁舎2号館低層棟共用会議室3B（オンライン参加併用）

[構 成 員]

有 識 者：別所 正博 東洋大学 情報連携学部 情報連携学科 教授
江守 央 日本大学 理工学部 交通システム工学科 教授
石塚 裕子 追手門学院大学 地域創造学部 地域創造学科 教授
岩崎 秀司 一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会 理事
相澤 美穂子 松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 准教授

自 治 体：東京都 福祉局 生活福祉部 企画課

東京都 北区 都市整備部 都市計画課

渋谷区 産業観光文化部 グローバル拠点都市推進課

川崎市 まちづくり局 指導部 建築管理課

名古屋市 健康福祉局 地域共生推進部 地域共生推進課

事 業 者：JR 東日本コンサルタンツ株式会社

全日本空輸株式会社

株式会社ナビタイムジャパン

WHILL 株式会社

ソフトバンク株式会社

認定NPO 法人ウィーログ

コドモト株式会社

株式会社 iiba

[オブザーバー]

関係省庁：国土交通省 総合政策局 共生社会政策課

国土交通省 都市局 街路交通施設課

国際・デジタル政策課

国土交通省 水管理・国土保全局

国土交通省 道路局 企画課

国土交通省 道路局 環境安全・防災課

国土交通省 住宅局 参事官（建築企画担当）

観光庁 観光産業課

厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部
厚生労働省 老健局
経済産業省 商務・サービスグループ 物流企画室
こども家庭庁 成育局 成育環境課

[事務局]

国土交通省 政策統括官付

2. 議事概要

(1) 議事

1) 前年度までの取組

【1) に対するご意見および質疑応答】

- ・ 自動配送ロボットに関連し、実証実験プログラムとして、8月24日（月）より自動配送ロボットの走行実証を開始した。また、人流データに関連し、人流データを一部オープンデータ化しており、本施策でも活用可能性があると考えている。
- ・ 資料1：③ 4) について、アイデアソンを通して補助金制度を考えるというよりは、低コストで展開できるようなアイデアを求める方向性となるか。
 - ・ 国として実現可能な補助金制度の検討と、事業者側として低コストで収益性のあるビジネスモデルをそれぞれ検討していきたいと考えている。（事務局）
- ・ 資料1：② 4) の他のデータフォーマットに関連し、GTFS（General Transit Feed Specification）の中で、「GTFS Pathways」という駅構内の乗り換え経路等を表現するためのフォーマットがあり、昨年度国土交通省から公開されている「GTFS-JP v4」の中にも位置づけられている。駅構内等の経路データ等はこの形式を用いると、今後乗換案内を行う事業者にとって利用される可能性もあり、今後の動向等を注視いただきたい。

2) 今年度の取組

【2) に対するご意見および質疑応答】

- 「バリアフリー施設等データ整備仕様（案）」及び「歩行空間における移動支援サービスの取組に関するガイドライン（案）」について
- ・ バリアフリー施設等データ整備仕様にて、使用頻度や普及状況に応じて備考欄に情報を整理するのは良いと思う。一方、多言語対応に関する情報は、ユニバーサルツーリズムや外国人労働者の増加、データ活用等を踏まえると、備考欄ではなく情報項目として整備した方が良いと考える。
 - ・ 多言語対応に関する情報は、自治体の多様な状況から全国的な扱いが難しいと感じている。本施策の目的に立ち返れば、車椅子利用者等の歩行困難者が苦勞なく外出できる機会を与えることが最優先事項なので、情報項目は最小限とし、引き続き注視して

いきたいと考えている。(事務局)

- 多言語対応について、生成 AI の活用により多言語翻訳が容易になってきている。まずは、日本語でデータを整備することが重要であると思う。生成 AI を活用しても、特殊な用語は翻訳のブレが発生する可能性があるが、基本的な用語に関する翻訳の対応整理に注力すると、あえて多言語対応に関するデータを整備せずに、生成 AI を活用して翻訳してもらうような可能性も残せると思う。
 - 本施策が多言語にどう対応していくべきかという、根本的な方針に関する意見と理解した。観光庁や総務省等の多言語対応に対する取組等を、引き続き注視していきたい。(事務局)
 - 多言語対応に向けた語彙の翻訳対応等を整備し公開することで、AI を用いた翻訳を行う際に妥当な翻訳になり、多言語に対応できる可能性がある。
- バリアフリー施設等データ整備仕様における多言語対応の項目追加に関する話は、バリアフリーや多言語に関する情報が必要な方に対して、どのように情報を提供するかという観点から、施設の設備や案内表示において、どの言語に対応しているかといった情報を収集・整理するためのものであると理解していた。施設の情報が多言語で提供されているかの情報を収集することと、多言語で処理しやすいようにデータを収集することは、段階が違ってくると思う。現在目指しているものを教えていただきたい。
 - 本施策は、バリアを感じている人々のバリアを無くすという主旨で、データを収集する。多言語対応については、今後インバウンド等にも活用できるデータの方が、データの利活用や整備の促進に繋がるのではという副次的な観点で、多言語案内に関する情報を求める人にとっても使いやすいデータが良いのではという議論になったと理解している。本施策では、バリアを感じる人に対しての案内がされているか、という視点でデータを集めていく。(事務局)
 - 多言語対応に関する情報は、外国語しか使えない障害者や高齢者の方が日本に来た際には有益であり、今後の想定内に含めていただけるとありがたい。現在は、バリアフリー情報を確実に収集することが、特に優先度が高いと理解している。
- バリアフリー施設等データ整備仕様において、各施設（バリアフリースイレやエスカレーター等）の中心位置を取得すると記載されているが、各施設の中心座標の取得は難しく、また、座標データが公開されても意味があるのか疑問である。公共施設であれば、各施設の位置情報が付与されたバリアフリー施設等データとともに、各施設全体の図面もセットで公開することで、データの活用が広がると思う。
 - 位置情報のみでは活用が難しいと理解している。施設全体の図面は、公開のハードルが高いと思うが、各施設の位置情報とともに、施設の図面も公開できるよう検討していきたい。(事務局)
- 本施策の取組内容を、第 5 期地理空間情報活用推進基本計画に記載いただくことで、5 年間の計画期間を通じて継続的な取組につながると思う。省内で、データ仕様等の共有

や働きかけをお願いしたい。また、データ整備を進めるにあたり、ジオ AI 研究会等で検討されている、AI に対応したデータのあり方に関する情報等も考慮しながら、今後データが AI を含む幅広い用途で活用しやすいものとなるように継続的な高度化が図られると良いと思う。

- ・組織横断的に本施策がどこまで盛り込めるか、引き続き連携を取りながら進めていきたい。(事務局)
 - ・今後、他の取組との連携も少しずつ考えていく必要がある。測地系等の共通点を強調しつつ、道路局や PLATEAU 等と情報共有をしながら、連携が図れるような取組を充実させていく必要があると考えている。
 - ・バリアフリー施策や PLATEAU に関する部署とは議論を進めている。本施策のデータについては、PLATEAU での有用性は確認できており、3 次元の都市空間に歩行空間のバリア情報（幅員、段差、縦断勾配等）が整備できる可能性がある。今年度の本ワーキンググループで議論できるよう、今後も連携を進めていきたい。(事務局)
 - ・現在、都市データ連携基盤事業にて、PLATEAU の活用も検討しており、本施策と連携の可能性もあると思う。
- 公共交通オープンデータチャレンジと各種データ整備ツールの試行運用について
- ・自治体の子ども支援課では、バリアフリーに関する施設データが分散しており、取りまとめる動きがあると聞いている。また、こども家庭庁からも、子ども関連のデータを取りまとめるとの話が来ており、動きがあるようである。子ども関連のデータは、バリアフリー施設等データとも重なる部分があると思うが、自治体やこども家庭庁等で取りまとめられたデータを、バリアフリー施設等データにも活用できる可能性もあると考えている。自治体等から情報のアップデートがあれば、共有したい。
 - ・子育て関連の方にも、本施策の声掛けや説明会の実施ができるよう進めていきたい。(事務局)
 - ・今後、説明会等を通して自治体の方々へ情報を提供し、本施策を推進していくことは非常に良い活動だと思う。また、歩行空間ネットワークデータ整備システムで、形状データの自動生成により、歩行空間ネットワークデータの整備を効率化する機能があると認識している。今後、本施策の普及にあたっては、このデータ整備を含めた自治体と国の役割の検討が重要であり、そのうえでデータ整備が行われると非常に有益な活動になると思う。
 - ・これらの課題抽出を含めた試行運用だと考えている。現時点では、本施策に積極的に参加いただいている自治体に自動生成した形状データを国から提供し、そこにランクを付与いただくことを想定している。形状データの自動生成システムはスタンダード版であり、現状では国で対象範囲の形状データを整備している。今後の全国展開にあたり、自動生成システムの公開等を含めた自治体と国の役割分担が課題であ

ると認識している。試行運用を通して、自治体と国の役割分担を明確にしたいと考えている。(事務局)

- ・自動で面的に広く形状データを事前に整備し、自治体が必要に応じて範囲を切り出して使用する方法もあると考えている。自動生成された形状データは不完全であり、公式なデータとしての公開に課題があることは承知しているが、不完全なデータであるという前提で一度整備しておくという考え方もあると考えている。
 - ・データ整備システムの編集機能がリリースされるとのことだが、昨年度実証を行った、撮影した写真から施設やバリアフリートイレ等のバリアフリー情報を取得する機能はリリースされるのか。
 - ・今年度リリースする方向で検討している。一方、今年度開発を進めている動画から歩行空間ネットワークデータを作成する機能は、技術検証段階であり今年度リリースはしない方針である。(事務局)
- AI を用いた歩行空間ネットワークデータ整備現地実証(案)と神戸市立工業高等専門学校での現地授業について
- ・学校との連携は、本施策の裾野を広げる上で非常に重要だと考えている。2022 年から高校で地理総合が必修修化されており、GIS の活用やフィールドワークを通して地域課題を発見してその解決に向けて考察することも授業として行われている。その中では様々な授業の実践事例が出ているが、本施策の取組も 1 つの学習プログラムとして提示できると、授業の一環として普及できる可能性がある。今回の実証を通して、今後様々な学校で展開できるプログラム化を見据えて検討いただきたい。
 - ・これまでは、福祉系の授業や総合学習の一環で小中学校での実施を想定していたが、高校の地理総合での実施は新たな視点をいただいた。検討したい。(事務局)
 - ・地理総合で扱うプログラムは、教育委員会の下で各高校に裁量権があるのか。(事務局)
 - ・文部科学省が学習指導要領や実践事例を示し、教育委員会等が基本的な事項を定めている。一方、具体的な内容や指導計画については各高校が地域の実態等を踏まえ自主的に判断していると認識している。
 - ・国からも、各教育委員会等にアプローチしていくことも考えていきたい。また、当該施策の観点から地理総合に熱心な都道府県や市区町村があれば、情報共有いただけるとありがたい。(事務局)
 - ・今年度実施する神戸市立工業高等専門学校の取組を通じて、教育プログラムとしての有効性や実施上の課題等を整理するとともに、神戸市や教育委員会等とも意見交換を行い、高校の「地理総合」における学校教育への今後の展開可能性について検討いただけると良い。
 - ・現在、神戸市の福祉関係の方と連携しているが、ヒアリングを行いながら関係部署に

横展開いただきたいと思います。また、本施策は、GISのほか防災やまちづくりとも親和性があり、避難経路の策定等ともマッチングすると考えている。(事務局)

- ・ 小学校・中学校・高等学校の教育段階の違いや、受講する学生の事前知識レベルに応じて適切な教材にすることが重要であり、現場で運用できる内容の教材まで落とし込むことができると、広く使っていただけると思う。ヒアリング等を通して、適切な教材として整理できるよう検討いただきたい。
 - ・ 歩行空間ネットワークデータは、屋外を主な対象として想定していると思うが、動画から歩行空間ネットワークデータを整備するアプリは、地下道や屋内で使用できると、活用の幅が広がると思う。現地実証において、可能であれば地下道等でも試していただきたい。自治体への公募でこのような案がなければ、事務局側で試していただき、結果を公表いただきたい。
 - ・ 屋内や地下でのデータ整備についても、今後確認しながら実施していきたい。(事務局)
 - ・ バリアフリー基本構想では、教育啓発特定事業として、障害への理解を深めることを各自治体で計画する必要がある。障害者団体の方による講話を行っているようなところもあるが、将来的には本施策と連携して、小中学校でそのような教育ができると理想的である。
 - ・ バリアフリー基本構想やガイドラインには、心のバリアフリーの意識醸成が明記されている。本施策のデータ整備がどこまで連携できるかは、継続的に議論を行った上で、必要なデータとそれにより実現できる社会像が提示できるよう、整理していきたい。(事務局)
 - ・ 今回公募で行う実証について、実証を行う範囲や想定している規模があれば教えていただきたい。
 - ・ 明確な規定や想定はない。自治体からは、重点整備地区や、基本構想やマスタープランに記載されている地域が提示されると想定しているが、本実証では技術的な検証ができれば良いため範囲は問わない。(事務局)
- 自治体・民間ヒアリングとアイデアソンの実施について
- ・ アイデアソンの位置付けは、利活用の事例を増やすための取組と理解して良いか。
 - ・ その通りである。(事務局)
 - ・ アイデアソンの開催方式: 案1について、自治体でどの部署がエントリーするかによってテーマが絞られると思う。想定する方向性や目標はあるか。
 - ・ 本施策としては、確実に移動支援が必要な方が助かるものを求めているため、福祉関係の方々が足掛かりになると考えている。一方で、自治体ごとに体制が異なるため、道路やまちづくり、DX等の部署も含めながら、対象として相応しい部署に声掛けしていきたい。(事務局)

- ・部署によって対象者が異なるため、データの利活用イメージを想定する必要があると考えている。今後、データが利活用されて運用する際には、どの程度利用されているのかという議論になると思う。対象となる部署で想定される KPI 等の前提が提示されると、参加者もイメージが湧きやすくなり良いと考えている。
- ・アイデアソンを実施する際に、企画の趣旨や定義を明確に示すことで、懸念はある程度解消されると考えている。歩行困難者への支援に着目し、さまざまなデータをどのように活用できるのか、また、その活用によってどのようなサービスが創出されるのかを考えるアイデアソンを行いたい、という趣旨をお伝えすることが重要だと考えている。(事務局)
- ・アイデアソンの趣旨を伝えることは非常に重要だと感じている。また、アイデアを出していただく上では、他のデータと組み合わせることが重要であり、他の公開データとの組み合わせの可能性を検討しながら企画をまとめると良い。実施の際には、組み合わせできそうなデータを示した上で参加いただくことで、趣旨に沿った参加者とアイデアを募ることができると思う。
- ・歩行空間ネットワークデータのほか、G 空間情報センターで公開されている様々な地理空間情報のデータも活用したサービスを考えることが、サービス高度化や新たなサービス創出において重要である。アイデアソン実施の際には、G 空間情報センターで公開されている地理空間情報に関するデータも紹介の上、歩行空間ネットワークデータとの組み合わせによるサービス例を提示することで、より良いアイデア創出に繋がると考えられるため、検討いただきたい。
- ・G 空間情報センターにて、多数の地理空間情報のデータが公開されていることは承知している。事務局から課題や求めるアプリケーションを提示すると、ルート案内に関するアイデアしか集まらないことを懸念している。地域の課題を提示いただき、それを解決するアイデアを求めた上で、本施策のデータがどう活用できるかを募る方が実施しやすいようにも考えている。アイデアソンの実施方法については、検討を重ねている状況である。(事務局)
- ・当初、アイデアソンは、地域を限定しない案 2 で実施した方が良いと考えていた。自治体に対してバリアフリー基本構想が進まない理由をヒアリングすると、バリアフリー基本構想を作成する部署が定まっていないことが挙げられた。地域課題がある自治体を募集することで、地域課題とバリアフリー業務が連携し、バリアフリー基本構想を部署で担当して取り組むことに繋がると期待していた。一方で、アイデアソンを通して、地域の課題とバリアフリーに新たに取り組んでもらうきっかけにすることを考えると、案 1 が良いとも感じる。コンペティションのような形式の場合、主催者がある程度方向性を示して募集した方が良いと思う。
- ・バリアフリー基本構想の作成担当部署や作成方法は、自治体によって異なると認識している。アイデアソンの実施にあたり、参加者の限定や参加依頼の声掛け等は難しい

があると感じている。(事務局)

- ・ アイデアソンの目的に沿ったアイデアを募るために、歩行空間ネットワークデータは移動困難者の移動を助けるためのものである、という大きな枠組みを設ける必要があると考えている。一方で、ヒアリング等で把握している地域課題等を情報提供しつつ、提案内容は自由に考えていただくようなバランスが必要だと思う。
- ・ 弊社が運営している「ステーションナビ」というアプリは、PLATEAU と連携し、駅とその周辺の PLATEAU データのある場所とを結び、駅と街を繋ぐ形で展開している。アプリのデータを活用できるのであれば、連携は可能であるため検討いただきたい。
 - ・ そのような方向性になった際には相談したい。(事務局)
- ・ アイデアソンの実施方法に関して、事務局で改めて案（案 1、案 2）を検討し、考えがまとまり次第、座長に相談したい。(事務局)
 - ・ 承知した。ワーキンググループで連携している自治体や事業者からもご意見をいただきながら決定していく必要があると考えている。引き続き議論できればと思う。

3) 今後の予定

【3) に対するご意見および質疑応答】

- ・ (無し。)

以上